



だだこね (第一次反抗期)

じぶんで
できるもん!

1歳半から3歳頃に多くみられ、自己主張と自己抑制を学ぶのに必要な時期。自分の願いを、具体的な行動によって表現する力が「だだこね」です。これまでパパ・ママたちと一緒にいて、いろいろしてもらった事を喜んでいた子どもたちは、一歳半になると、自分というものを作り上げるために、「パパ・ママたち大人と自分は違うんだ」ということを表現するようになってきます。イヤイヤをいっぱい発揮しだだをこねることは

成長において、「自立」「表現」を学ぶための大切な一課程です。

じぶんで!



この時期の子どもは、まだ「自分の思い」だけの世界にいるので、相手の気持ちまで思いやることができません。お出かけする時に、用意した服を「いや!」靴を履かせてあげると、脱いで投げ捨てることもあるでしょう。できないのに「じぶんが!」「じぶんで!」と主張する子どもの姿に、イライラしてしまいますよね。このような、反抗や拒否に対して、「もう! 急いでるんだから」とか「せっかくなのであげたのに」とか「だめ!」と無理に押さえつけてしまうことは、自我を形成していくための意欲が育ちません。時間がかかっても、「自分でやりたかったんだね」と子どもの気持ちを受け止め、また子どもにまずはさせ見守りながら、「難しいところ手伝ってあげようか」「ここまで自分でできたね」と認めたり援助することで、子どもの行動が変わる事もあります。

いやだ

じぶんでやり
たかった~

大人が選んだものを「これ嫌やった」と主張するときは、「どっちにする?」と子ども自身に選ばせるようにし「自分で決められた!」という満足感を子どもが感じられるようにしてあげましょう。そのためには、時間がかかることを見通して早めに仕度を始めるなど、ゆとりをもって接することが大切になります。

子どもの成長にとって大切な時期だと頭ではわかっている、大人は振り回されて「もうい
いかげんにして」「いつまで続くの」という気
持ちになり、親のほうが「もうイヤだ」という
気持ちになることもあるでしょう。

「他の人だったら言うこと聞くのに！！」「ど
うして！」と怒ってしまいますが、親が一番
わがママを言え、安心できる存在だからなん
です。



子どもがわけのわからないことでだだをこねるのには、単に目の前のこと
ではなく「パパやママにかまってほしい」「甘えたい」というサインであるこ
とも多いです。パパやママに好かれたい一心で、“オリコウサン”にしている
苦しさがコントロールできず、だだこねの姿に表れていることもあります。

「さびしいよー」という気持ちを受け止め、抱っこや
ふれあい遊びの中でゆっくりと感情を伝え合ってください。

家の中だといつ用事をしたくなりますが、時には
それをあきらめ、公園や地域子育て支援拠点等に出掛け、
子どもとゆっくり遊んだり、他の親御さんたちとお喋りしたり、周囲の人に
相談したり、受け止めてもらおうと、同じ事で悩んでいるんだなと思え気持ち
が楽になりますよ。

だだこねを、格好が悪いと周りの目を気にして、言いなりにになりごまかし
ていくことは、思春期に大きな葛藤と向き合わなくてはなりません。

そのためにも、子どもの心の声をしっかり受け止め対応して
いきましょう。こまった時は、家族や友達などに相談し
ましょう。

